

戦後北海道経済史の探究



旧住友炭立抗槽（三笠市）

授業概要

戦後の北海道経済の歩みを歴史的に跡付けるとともに、それぞれの時期における課題を考える。戦後の北海道では、石炭産業、北洋漁業などの盛衰を経験し農業も国際環境の変化により変貌している。経済史を学ぶとともに、今後の展望についても考察する。

到達目標

1. 北海道の近現代史について正しく理解し、資料を用いて自分自身の力でレポートを書くことができる。
2. 日本の戦後史を正しく理解したうえで、北海道固有の条件を叙述することができる。
3. 地方経済史の研究方法を身につけ、北海道以外の都市や地域について分析することができる。

担当教員

白木沢 旭児

北海道大学大学院 文学研究院 教授



授業計画

1. 戦時経済下の北海道
2. 終戦直後の北海道
3. 北海道における戦後改革
4. 北海道総合開発計画の開始
5. 石炭産業の復興
6. 北洋漁業の再開と再編
7. 苫小牧港の開発
8. 物流における「札幌一極集中」の開始
9. 十勝農業史
10. 産炭地域振興事業
11. 苫東開発の破綻
12. バブル崩壊と北海道
13. なぜ小樽は衰退したのか
14. 21世紀の北海道経済
15. まとめ

成績評価

本講義の内容を理解するためには毎回の出席が必要である。その上で期末レポートを課す。期末レポートは、問題意識の明確さ、文献調査・読解能力、文章表現力などを総合的に評価して行う。期末レポートにより学期末の成績評価を行う。